

図書館ニュース

Vol. 34, No. 3 (2006. 1)

図書館ホームページ ニューデザイン

5つのメニューへのタブ

キーワードを入れて蔵書検索

English | 携帯対応版

おすすめコンテンツ

利用案内 各種申込窓口 お知らせ データベース 当館について

開館カレンダー
2005年11月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

お知らせ

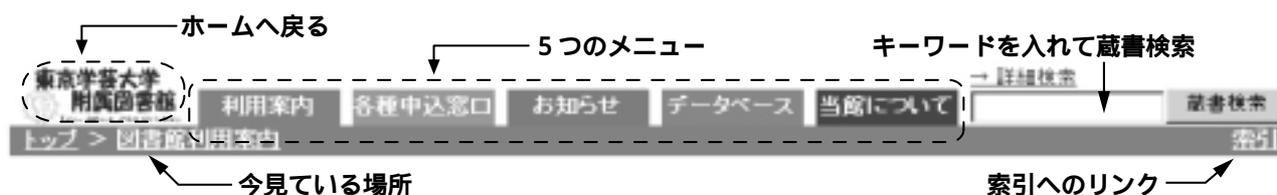
開館カレンダー

お知らせ

Copyright (C) 1996-2005 Tokyo Gakugei University Library. All Rights Reserved.

目次

図書館ホームページ ニューデザイン	1
E - TOPIAを使いこなそう!	3
卒業予定者エッセイ (佐藤 優 / カースティン・ローレンス)	4
自著を語る (伊藤 良子 / 佐藤 郡衛)	5
平成17年度所蔵資料展・講演会・ワークショップの報告	6
卒業・修了予定の皆様へ / 新“附属図書館報”名決定	8



後期授業の開始に合わせて、図書館のホームページをリニューアルいたしました。以前のホームページについて、実際の利用のされ方を見たり、使っている方の意見を聞いたりしていると、改善の余地があると思われました。そこで、図書館では、ワーキンググループで話し合い、リニューアルを行うこととしました。

改定のポイントは以下のとおりです。

5つのメニュー

いままでのホームページは、一画面に多くの項目を盛り込み過ぎて、求める情報がどこにあるか分かりにくくなっていました。これを5つのメニューに整理しました。「利用案内」はもちろん、「各種申込窓口」として、Webからの申込みフォームをまとめるなどの整理を行っています。

ナビゲーションバー

それぞれのメニューの間での行き来が容易なように、ほとんどのページに、このページの上にあるようなナビゲーションバーを付けました。また、現在メニューの中のどこにいるかを示すとともに、蔵書検索（学芸大OPAC）窓、索引へのリンクなどを配しています。

蔵書検索（学芸大OPAC）窓

一番、よく使われるのは、蔵書検索ではないでしょうか。そのため、トップページや、ナビゲーションバーに、蔵書検索を行う機能を付けました。こまかい条件を指定できる「詳細検索」画面へのリンクもはってありますので、ご活用下さい。

索引

ホームページで、提供しているサービスのアルファベット順・五十音順の索引を作成しました。タイトルは覚えているけど、メニューのどこにあるか、分からないというようなときに利用してみてください。

おすすめのコンテンツ

トップページに右側に、よく使われるコンテンツや、図書館でおすすめのコンテンツのアイコンを配置しました。E-TOPIA、双六コレクションなどに、1クリックでアクセスできます。

データベースメニュー

データベースについても、分野別インデックス、電子ジャーナルのページなどで分かれていましたが、「データベース一覧」に整理・統合しました。よく利用されるデータベースを目的別に一覧できる表形式のメニューをトップとし、分野ごとの一覧機能、検索機能など、多様なアクセスを可能としています。

文字コード（UTF-8）のこと

ホームページの文字コードをUTF-8にしました。一部、Shift-JIS、EUCが残っているところもあるため、ブラウザのエンコードは自動判別にしておいてください。蔵書検索（学芸大OPAC）では、韓国語・中国語等を扱うため文字コードがUTF-8となっており、各ページで検索を実現するための変更です。

今後とも新しくなったホームページをよろしくお願いたします。

（情報管理課学術ポータル係）

Education + Utopia
E*TOPIA を使いこなそう！
 いーとびあ

図書館ホームページで



このロゴをクリック！

教育実習に行く、レポートを書く等教育に関する情報を収集するときは、

E-TOPIA (いーとびあ) を使ってみましょう！ (<http://library.u-gakugei.ac.jp/etopia/>)

教育情報収集の入り口として、本学の学生のみにとどまらず、実際の教育現場でも活用できるような情報を数多く提供していますので、卒業後もぜひご活用ください。



こんな時にはまずE-TOPIAから！

CASE ①

教育実習で使う教科書は購入したけど、これに対応する指導書は学芸大の図書館にある？

教育総合DB (教育資料検索画面) を使いましょう。

詳しい検索方法は館内で配布している **TIPS for LIBRARY E-TOPIA を使う** にあります！

CASE ②

授業計画の参考になる指導案や授業実践記録を探したい！

教育総合DB (教育実践情報検索画面) で、本学附属学校の紀要等に掲載されている実践研究・実践記録の情報が検索できます。一部は本文まで閲覧できます！

教育実践データベース で、本学附属学校等で行われた先進的な教育実践情報を入手できます。すべて本文まで読むことができます！

パスファインダー から、たどってみよう！

「授業を創る」に外部の教育実践情報データベースを紹介しています。

CASE ③

インターネットで情報を集めようと思ってGoogleで検索したら、関係ないものばかり...

パスファインダー で、トピックや分野・教科ごとにWeb情報を紹介しています。

検索する際に適切なキーワードや、関連書籍も参照できます！

教育WEB全文検索 で、パスファインダー掲載サイトの全文検索ができます。

教育系のサイトに対象を絞っているのので、一般的なキーワードでも教育の文脈で使われているページがヒットします。例)「遊び」「健康」「読書」.....

卒業予定者エッセイ ●

図書館利用事始め

佐藤 優



私個人の経験を基に、図書館を利用して思ったことを書こうと思います。

早速ですが、実を言うと、私は入学してからこれまで数えるほどしか図書館を利用したことがありません。そんな私が本格的に図書館を利用したのは、卒業研究のためでした。それはまず、資料をデータベースで検索することから始まりました。そして、やっと見つけた文献の所在は図書館内ではなく、「地理学研究室」とのこと。

え？「地理学研究室」ってどこに行けばいいの？誰に借りに行けばいいの？

検索して、文献を見つけて、最初に心に浮かんだことはこのようなことでした。傍から見れば、たいしたことのない疑問なのかもしれませんが、私にとっては大きな問題でした。

なんとか地理学研究室の教官に連絡を取り、借りに行

くことができましたが、社会教育分野所属の私にとって、まったく足を踏み入れたことのない研究室へ文献を借りに行くということは、戸惑いの連続でした。図書館以外に収められている資料などについては、どのような手続きを踏むべきなのか、どこに閲覧を申し出たらいいのかなどを明らかにしてほしいと思いました。

そんな感じで始まった私の図書館利用ですが、その後は多くの論文紀要や専門雑誌など、これまで知ることのなかった資料に出会う機会がありました。その際には職員の方に何度も製本中の資料を取りに行っていたいただき、大変お世話になりました。今後も大学図書館を大いに活用しようと思います。

(さとう・ゆう L類学習社会文化専攻)

図書館と河童の関係とは？

カースティン・ローレンス



はじめまして。私はオーストラリアから来たカースティン・ローレンスと申します。東京学芸大学に入ってから、今年が四年目になります。最初の半年、「日本語研修コース」のCクラスでは読み書きを中心として、日本語を勉強しました。はじめて、図書館を利用するのはCクラスのころでした。日本語のクラスで来日してから、面白いと思うことについて発表しなければなりませんでした。

そのころ、私はたまたまテレビを見ているとき、亀みたいな怖い怪物を見ました。友達には「それは何？」と聞いたら、「それは河童だよ。」と言われました。「河童」は日本の妖怪の一つだと分かりました。そこで興味が湧いてきて、発表のために「河童」について調べることになりました。

Cクラスの笹目先生と一緒に図書館に行って、「学芸大OPAC」で「河童」をキーワードとして検索しました。見つけたのは水木しげるの『妖怪画談』と『妖精画談』という本でした。『妖怪画談』を開いて見ると、とても驚きました。「河童」の以外に、「ぬりかべ」、「ざしきわらし」、「化け猫」というさまざまな妖怪がありました。日本にこんなにたくさん妖怪が存在するか分かりませんでした。

この本をきっかけとして、図書館の一階にあるパソコンを使って、水木しげるのウェブサイトにもアクセスしました。そこで妖怪の特徴、種類、現れる場所などを知ることができました。特に、「河童」の始まり、伝説、ことわざなどはとても興味深かったです。

図書館のおかげで、日本語での初めての発表が無事に終わりました。それ以来、私は留学生センターでは「河童」の発表で有名になりました。実は、今月になって、留学生センターの島田先生から「河童」の人形をいただいて、「カースティンさんは河童が好きだからね。」と言われました。

私は今大学院の二年生で、そろそろ修士論文を提出して卒業を迎えます。この四年で図書館は私の研究にとって大事な役割を果たしています。『妖怪画談』からはじめ、さまざまな文献を探してきました。卒業しても、図書館で作った思い出は私の心に残るでしょう。長い間、お世話になりました。

(カースティン・ローレンス 留学生)



『自閉症の子どもたち - 間主観性の発達心理学からのアプローチ - 』

(中野茂, 伊藤良子, 近藤清美監訳、ミネルヴァ書房、2005年6月)

(図書館1F開架 493.9375/MIN)

伊藤良子

本著は、母子相互作用の研究で日本でも大変有名なトレヴァーセン博士が中心となって編集した自閉症に関する包括的な概論書を共訳したものです。生物学者でもあるトレヴァーセン博士は、自閉症児は脳の障害があるが故に乳児期から養育者との相互作用に困難をもち、そのことが対人関係を中心とした重篤な障害につながっていくと考えています。しかし、自閉症の子どもが人との関わりをまったく拒絶しているわけではなく、親しい大人がやさしく適切な方法で関わってあげること、彼らも関わりを楽しめるようになると主張しています。そのための様々な具体的な療育方法が

本書では紹介されています。

翻訳を開始してから刊行に至るまで実に4年近くも費やしてしまいました。典型的なイギリス英語で内容も難解であり、大分難航しましたが、国際学会や来日の折に触れてはトレヴァーセン博士に直接質問したり、議論しながら理解を深めることができ、大変貴重な体験をしました。

(いとう・りょうこ

教育実践研究支援センター教授)

『ひとを分けるものつなぐもの：異文化間教育からの挑戦』

(佐藤郡衛, 吉谷武志編、ナカニシヤ出版、2005年3月)

(図書館1F開架 371.5/SAT)

佐藤郡衛

この本は、「ひとを分けるもの、つなぐもの」の解明を目ざしたものです。これまで、「ひとを分けるもの」として国家、民族、文化等があり、それらは変えることのできないものとして自明視(本質主義化)されてきました。国民国家が「幻想としての共同体」と指摘されていることからもうかがえるように、これまでひとを分けてきた枠が弱体化しつつあります。こうした中でその枠の解体を前提に、安易に理念的な共生論をとらえるのではなく、「分けるもの」に踏みとどまり、それをとらえることを課題にしたものです。これまで「ひとをつなぎ、分けてきた」枠は相変わらず存在し、ひとを拘束し続けています。「ひとをつなぎ、分けるもの」を明らかにするには、それを否定し実態のない言説としての共生を唱えるのではなく、その枠を相対化する必要

があります。それは、研究者自身もつ「権力性」や研究の過程でつくりあげる枠を意識し、それ自身を相対化していくことが必要です。私たちは、自分たちの内部にある「分けるもの」「つなぐもの」に真摯に向き合いそれを相対化することから出発しました。単に相対化するだけでなく、「ひとを分ける、つなぐ」とはどのようなことか、どのようにしたら「ひとをつなぐ」ことが可能か、そしてそのための実践のあり方はどのようなものを提案したのがこの本です。みなさん、ぜひ、一度、手にしてみてください。

(さとう・ぐんえい 国際教育センター教授)

平成17年度所蔵資料展・講演会・ワークショップの報告

1 所蔵資料展について

附属図書館では、去る平成17年11月1日（火）から6日（日）までの6日間、1階閲覧室で「絵双六の世界 - 遊びと学習美（まなび）」と題して所蔵資料展を開催しました。今回は江戸時代から大正期までの子ども遊びを中心とする絵双六19点を厳選・展示し、加えて実際に体験できるコーナーを設置しました。さらに、このコーナーには体験用絵双六および「子ども文化研究開発事業プロジェクト*^{注1}（以下、「プロジェクト」）」が提供する、けん玉、羽根つき、お手玉、折り紙、だるま落とし、おはじき、輪投げなどの遊び道具も用意しました。

双六の中にも登場する昔の子ども遊びの数々に、「ござ」の上で時を忘れて興じる親子の姿が多く見られ、また、けん玉などで見事な技を子どもたちに披露・指導して下さる学生さんたちもあって、楽しい交流の場となりました。



2 講演会について

1日（火）には、附属図書館3階AVホールで、本学日本語・日本文学研究講座の黒石陽子助教授による講演会「絵双六の世界」を開催しました。ご専門の歌舞伎等劇文学研究の視点も交え、絵双六の歴史、社会背景とともに変遷する絵双六の役割などをわかりやすく躍動的に解説され、市民を含む参加者に大変好評でした。

講演内容（全文）については、附属図書館のホームページ*^{注2}をご覧ください。また、今回の講演（約90分）はビデオオンデマンドでも配信していません（学内でのみ視聴可能です）。聞き逃した方はもちろん参加された方々も、是非これを活用して絵双六への興味を新たにしていいただければと思います。





3 ワークショップについて

3日(木・祝)、5日(土)、6日(日)には、附属図書館1階閲覧室および入退館フロアで、子どもを対象とした「巨大すごろく」ワークショップが開催されました。昔の子ども遊びを体験してもらうために、「プロジェクト」に参加している大学院生たちが中心となって企画したもので、延べ10名ほどのボランティア(学生さんや附属幼稚園の先生など)の方々の協力のもと、竹ぼうくりを履いた子どもたちのグループがサイコロの目の数に合わせて「巨大すごろく」を進み、そこで引き当てた昔あそびを体験しました。



連日盛況で、知らない遊びにもすぐに溶け込む子どもたちとの触れ合いは企画・実施した人たちにとっても新鮮で貴重な体験となったようです。

4 まとめ

総入場者数は1,148名でした。

アンケートでは、特に興味ある双六として 小学尋常高等科修行寿語録 世界巡り双六 小学教科双六、大日本物産双六、二十四時家庭双六 擬文字道中双六、教育勅語双六、明治少年双六、俳優力士陸合双六、新案南極探検飛行機双六、大日本六十余州一覽双六、小学校大運動会双六などがあがっていました。遊びでは けん玉、お手玉、だるま落とし おはじき、折り紙などです。

展示会全体の感想・意見としては、「時代の流れ、当時の遊びなどよくわかる」「双六と教育の関わりがおもしろかった」という感想がほとんどでしたが、「(昔の文字に)ヨミがあるともっとおもしろいのでは?」というご指摘もいただきました。また、「展示に合わせて昔遊びもでき、子どもと一緒に楽しめた」「ござが敷かれていて良かった」という感想のほか、子どもとゆったり時間をかけて関わることのできる昔の子ども遊びが特に幼児期の生活には必要なので、こうした機会をこれからもくりかえし続けていってほしいという要望も寄せられていました。

最後に、以上の催しにおいでくださった方々、そしてこの6日間のためにご協力くださった方々にお礼申し上げます。また、この期間中も通常通り開いていた図書館を利用されていた方々にも、体験コーナーの賑わいやワークショップ時の歓声に驚くことなく温かく見守ってくださったことを感謝いたします。

(文責：学術情報部情報サービス課 森高桂子)

*注1 平成16年度から図書館、学内外の研究者、企業との連携で推進しているプロジェクトです。

*注2 展示会および講演会の詳細は、附属図書館ホームページ「展示会アーカイブhttp://library.u-gakugei.ac.jp/lbhome/tenjikai/tenjikai_H17_2.htmlでご覧いただけます。また、講演内容(全文)はビデオにもリンクしています。ビデオは学内でのみ視聴可能です。

卒業・修了予定の皆様へ

● 卒業後も利用できます！

卒業・修了予定の皆様おめでとうございます。皆様の思い出の中に、図書館は存在するでしょうか。試験期、教育実習、レポート・論文作成、読書、ビデオやDVD・CDの利用、インターネット検索など、いろんなときに、いろんな形で、お役に立てたでしょうか。図書館を大いに利用された方、もっと利用すればよかったと心残りの方、それぞれにお知らせがあります。ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、図書館は卒業生も利用できるのです。卒業生であるかどうかは、卒業生名簿で確認できますので、あとは、住所の確認できるもの（本人確認のため写真付のもの - 身分証明書や運転免許証など）を持って、図書館のサービスカウンターで手続きをしてください。詳しくは、東京学芸大学附属図書館HP上の「利用案内」「学外利用者の方へ」<http://library.u-gakugei.ac.jp/gakugai.html> をごらんください。

● 卒業までに返してください！

図書館から借りている本がありましたら、卒業までに必ず返してください。延滞している人はすぐに返却してください。在学中にも、探している本がなかったという経験がある方もいらっしゃると思います。後輩のために、必ず返却して卒業して下さるようお願いいたします。

● 本を汚損・紛失した場合は・・・

図書館から借りている本を、汚損・紛失した場合は、当該資料の弁償をお願いすることになります。詳しくはサービスカウンターまでご相談ください。

● 図書館にご協力を！

ご存知のように、平成16年度から旧国立大学は国立大学法人となりました。それまで以上に財政は厳しくなりましたが、その分、サービス向上に努力しています。環境を整備したり（床がきれいになったり、閲覧机や椅子が部分的に新しくなりました）、平日の開館時刻が早くなったり、少しずつ頑張っています。でも、あるべきはずの図書館の本が利用できないのは、皆様の協力なしには改善できません。新しく買える本はなんとかなりありますが、絶版等で、買えない本もあります。卒業生に限らず、在学生の方々にも、ぜひぜひ「図書館の本を返す」という基本的なルールを守ってくださるようお願いいたします。

！新“附属図書館報”名決定！

募集しておりました新“附属図書館報”名が、決定しました。

ライぶらり

です。次号からタイトル・デザインを変更しての発行となりますのでお楽しみに！

編集発行 東京学芸大学附属図書館

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
TEL 042 - 329 - 7223 / FAX 042 - 329 - 7226

URL <http://library.u-gakugei.ac.jp/>
携帯版URL <http://library.u-gakugei.ac.jp/i/>

再生紙70%を使用しています